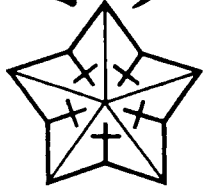


大井第一小学校



同窓会会報14号

大井第一小学校同窓会 発行責任者 大野 正恒 2012年4月

○ 第5回同窓生の集い (旧ホームカミングデー)

懐かしい「大井第一小学校」に集まろう
鹿嶋神社祭礼の日
10月21日(日) 11時～15時
★クラス会・同期会の集合場所としても
ご利用下さい

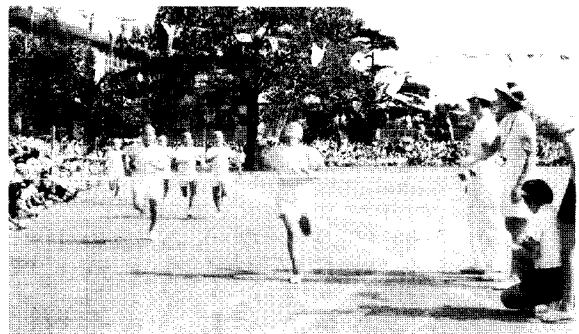


○ ホームページができました

「大井第一小学校同窓会」で検索
URL <http://oildoso.net>

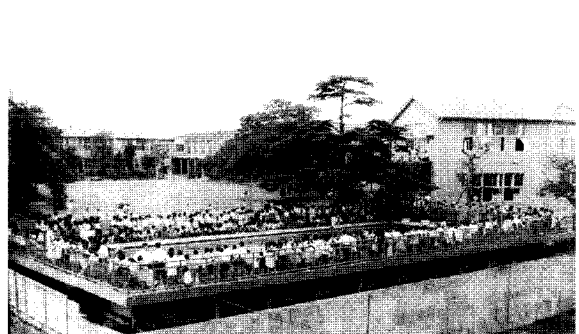


ホームカミングデー



昭和32年運動会

ホームカミングデー



昭和32年9月 プール完成

絆を大切にしよう

昭和39年卒
同窓会会長 大野 正恒

昨年、津田前会長の後任として会長に就任しました昭和39年卒業の大野です。同窓生および関係者の皆様、よろしくお願ひします。

私は同窓会の意義・役割について、正直迷っていました。ここ数年同窓会のお手伝いをしながら、何のメリットがあつて会報作成や「ホームカミングデー」を開催しているのかとか、同じ小学校を卒業しただけの関係が仲間なのか：と。

昨年は東日本大震災が起き、災害時・復興時の「絆」の大切さを考えさせられました。人間は人と人の関係・地域の関係の中で生かされて、はじめて安らかに暮らしていけると思いました。一人では楽しく生きていきません。そのひとつのささやかな関係として、大井第一小学校の卒業生同士の「絆」があります。私自身、同窓会の活動を通じて先輩方や後輩達と知り合うことができ、語り合える仲間ができました。仕事とは全く関係なく、地域の仲間ができたことは今幸せに感じています。

さて、今まで毎年の主な同窓会活動は、皆様の投稿文章を載せた「会報の発行」と皆様の集まる機会提供の「ホームカミングデー開催」でしたが、今回、「同窓会ホームページの立ち上げと運営」を追加することができました。同ページには活動内容や会報のバック

ナンバーが載っています。先輩方・先生方の歴史を垣間見ることができ、その中で閲覧をお勧めします。また、同期会やクラス会の案内・報告を掲載できるようにしています。

当ホームページは皆様のものです。お問合せ欄よりのご意見や情報投稿をどしどしして頂き、皆様の情報交流のツールとして発展させていきます。

大井第一小学校同窓会は皆様との「絆」をしつかり支え、広げていけるよう活動していきます。

十年ひと昔

昭和14年卒

前会長 津田 照通

私が同窓会に関係を持ったのは昭和16年9月、日本青年館で行われた同窓会幹事会でした。その後エスカレートしていった戦争と、終戦後の長い空白の時を経て、昭和30年代後半頃から、顔見知りの同窓生達が連絡を取り合い、その輪を徐々に拡げて行きました。その頃から私は裏方として協力する様になり、90周年を過ぎ、100周年を迎える頃には同窓会らしい組織が出来始め、記念の祝賀同窓会を開くことが出来ました。120周年には記念事業として「みみずく」のブロンズ像を寄贈し、平成8年には同窓会会員名簿も配布することが出来ました。130周年には児童の安全を守るため、校内に「防犯カメラ」4台を設置したことで品川区の功労者表彰を受けました。

この間5期10年の長きに亘り無難に会長職を続けて来られましたのは、学校側の深いご理解と、同窓会役員、理事の方々の温かいご協力の賜物と深く感謝致して居ります。十年ひと昔「思えば本当に長い年月でした。

母校は間もなく140周年を迎えることになり、区内最多の児童数を抱え、今尚その名声は高く、ご存知の通り平成23年5月には本校の元教諭糸川順子先生が皇太子の長女愛子様のご養育係（家庭教師）としてその優れた指導法が評価され、公立小学校からは初めての養育係に抜擢されました。そのお陰で本校は名門区立小学校として全国的に報道され大きな話題となりました。同時に益々充実して行く同窓会の姿は私の誇りであり、勇退した後も顧問として外部から出来る限りのご協力をするをお約束申し上げ退任のご挨拶と致します。

菊作り「ふらつと会」

元大井第一小学校長 小林 喜人

情操を育てる

昭和49年4月私は大井第一小学校の教頭として大原小学校から移動してきました。当時旧校舎を建て替える最中であつた。まだ古い校舎が残っていたので、校庭にはプレハブ2階建ての校舎があり使われていた。夏になると屋根はよじで覆われており、落着いて勉強はできなかった。そのためには情操を育てる必要があると考えた。私はかつ

て子ども達に実践したところのある、小菊のひと鉢栽培をしようと考えた。早い方がよいとすぐ実践に踏み切った。上学年から菊作りを始めた。思ったより積極的に子どもたちは参加した。秋になると自分達の育てた菊が咲いてきたのでたいへん喜んだ。6年生の卒業式にはそれぞれ自分が育てた菊の鉢を飾り式をあげた。

「ふらつと会」の始まり

その翌年度PTAに「菊作りをしませんか。」と声をかけたところ、十数人の人から参加希望があつた。最初からいきなり懸崖作りの菊に挑戦した。苦心しながらも初歩的な懸崖作りの鉢ができた。

昭和50年は大井第一小学校創立100周年であつた。そして記念式典は11月1日に挙行されることになつていた。この式典を目指し児童の作った菊とともにPTAの作った懸崖の菊を式場に飾ろうといふことになつた。

PTAの方々から菊作りに集まるようになった。菊作り作業の時、「先生この会の名前を



つけたらどうですか」という声がかかつた。私から「みんなが学校にふらつとやってきて、菊作りをしたらどうですか」ということで「ふらつと会」と提案をした。期せずして賛成の声があつた。そういうことで会の名前が決まつた。気負わず自由な気持ちでやりましょうという意味であつた。

児童は小菊の玉作りをクラスごとに育て、「ふらつと会」は懸崖作りを盛んにするようになった。

地域への広がりとお大輪作り

やがて地域の小学校にも依頼され式典などに飾ってもらうようになった。その他地域の警察署や消防署などにも差し上げたりして飾ってもらつた。正門をはいった校舎の入口の前に「ふらつと会」の咲かせた菊をならべて学校へ来る人々に喜んで見ていただいた。これらの活動が区に認められ昭和60年社会教育登録団体として承認された。

そのうち懸崖作りだけでなく大輪の菊や様々な菊作りをやってみたいという意欲的な声が出るようになった。幸い大井地域には長年菊作りをしてこられたベテランの人たちがおられた。この人たちに協力をお願いしたところ、ご承諾をいただき大輪の菊作りの本格的な指導をいただくことになった。こうして菊作りの内容が豊かになつ

て3本仕立てなど基本的なご指導をいただいた。そして懸崖作り大輪作りを中心としたものに発展した。それから校舎入り口の菊の展示は以前にまして美しくなった。

児童の菊祭り

このようにして「ふらっと会」の菊作りとともに児童の菊の一鉢栽培も盛んにおこなわれるようになった。盛んになると全校児童で菊祭りをしようということが、職員から出るようになった。

そこで祭りの会場は児童の作った小菊をピラミッド状に積み上げ、その周りに菊鉢を並べることにした。その周りを囲み全校児童が集まり、仮装行列をした。地域で昔歌われていたわらべ歌を、着物を着た何人かの子ども達が歌いながら踊った。わらべ歌は次のようなものである。



「菊の花びら菊祭り 今日のは楽しい菊祭り ひと株 ふた株 み株 菊祭り かわしやんせ かわしやんせ」

こうした菊祭りは楽しいものであった。

菊作りの学校

やがて大井第一小学校は菊作りの学校として知られるようになった。しかし菊作りは現在「ふらっと会」が引き継いでいるだけである。しかし児童の情操には大きな影響を与えている。

「ふらっと会」という会の名前ができてから今年で37年目になるが菊作りは前年より始めているので、菊作りは38年目になるといえる。このように長いこと続いた原因の一つは運営を中心になつてしてくれた人々がいたからだと思う。それは内藤陽子さん・田辺智子さんである。その他何人もの協力者もおられたからである。

なお長続きしてきたのは、武井春夫校長先生から現在の太島久幸校長先生にいたる代々の校長先生方が「ふらっと会」についてご理解とご協力くださったからである。菊作りの場所も好意的に使わせてくださった。また学校行事等にも役だたせて頂いているからである。

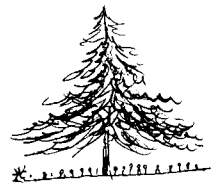
このことを通して児童の情操を高めるために、大きな影響を与えているのではないだろうか。

ヒマラヤ杉、桐の木、

そして菊ひびく

元大井第一小学校長 大野 福三郎

昨年3月11日の大地震、東日本一帯の大津波、福島第一原子力発電所の太



事故の爪あとが、まだテレビ・ラジオで報道されている平成24年です。卒業生のみなさん、震災時いかがでしたか。それに私の尊敬しておりました大井のみならず品川の生き字引の岡田一郎氏(元同窓会長)を2月に失い、本当に淋しいむなししい平成23年でした。先ず岡田一郎氏に深く哀悼の意を表したいと思

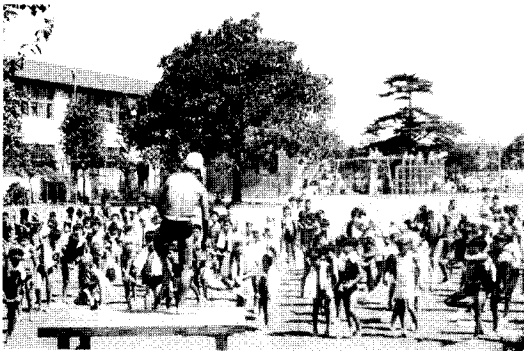
さて、大井第一に話を戻しますと、私が教頭、校長時代を通して、同窓生が学校に訪ねてきます。必ずといっていいほど「校庭の桐の木はどうなっていますか。」と質問がありました。校庭の東に君臨していた桐の大木は残念ながら1982年(昭和57年)8月の台風10号で倒れてしまいました。夏には紫色の大きな花を咲かせ、夏休みの水泳帰りの子ども達の大きな日傘となり、子ども達に親しまれた銘木でした。当時、区内小中学校の樹木調査があり、大井第一には二百数十種類の樹木があり、高く聳えるヒマラヤ杉と共に、桐の大木・なつめの木等区内有数の緑や樹木の多い学校といわれました。

1975年(昭和50年)11月、開校100周年記念式典が盛大に行われました。校長武井春夫先生、教頭小林喜人先生がこの100周年を目指しての「菊づくり」が始まりました。PTA有志に呼びかけ、名称をふらっと会(ふらっと集まれる気軽な会)と名付け、その

大輪、懸崖のすばらしい菊の花が会場を埋め尽し、心に残る式典でした。以来毎年、菊づくりの仲間が汗を流し、秋には色とりどりの大輪を咲かせています。平成に入っても大井第一の名物として、代表内藤陽子さんを中心に、ねばり強く菊づくりを進めています。子ども達も一鉢一鉢、菊づくりに参加して、秋の菊まつりは学校の大きな行事の一つとなりました。毎秋、玄関前には大輪小輪が顔をならべ、皆様を歓迎しています。

1985年(昭和60年)は開校110周年の記念式典がおこなわれた年です。この年は本校にとっても品川にとっても大きな出来事がありました。5月、アメリカ人モース博士(大森貝塚発見者の生誕地であるメイン州ポートランド市と品川区が姉妹都市を結び、市の視察団の歓迎会、学区にある品川歴史館落成式、大森貝塚遺跡公園の除幕式等がおこなわれました。大井第一の児童が鼓

奏する中、親善使節を迎え、会を大きく盛り上げた。昭和30年代 桐の木とヒマラヤ杉



げました。その後、ポートランドのジャック小学校と大井第一が姉妹校となり、作品の交換、教師の交流、交響楽団の演奏、国際交流室の設置など、いくつもの交流が行なわれています。

ポートランド名産の生きた大きなハサミを持ったロブスターが10匹ほど送られて来て、玄関の水槽で元気な姿を見せてくれたのも、ポートランドと私たちを身近にしてくれました。私も1986年10月、塚本区議会議長を団長に、和田教育長と共にポートランドの使節団に加えていただきました。

本校姉妹校ジャック小学校では、校門より玄関まで菊の小鉢が並べてあり、私共使節団を大歓迎してくださったことが脳裡にはつきり刻まれています。

今、記念誌、卒業写真、学校だよりをひもどき、大井第一小学校の伝統というものをあらためて感じています。樹木一つ、菊づくり一つとつても、大井第一の伝統、校風が心によみがえってくるのです。この学校に勤めさせていただいたことに感謝して筆をおきます。

大井のみみずく

岡田さんありがとうございます

元大井第一小学校長 大野 福三郎

岡田一郎さんほど大井第一小学校を愛した人はいないでしょう。

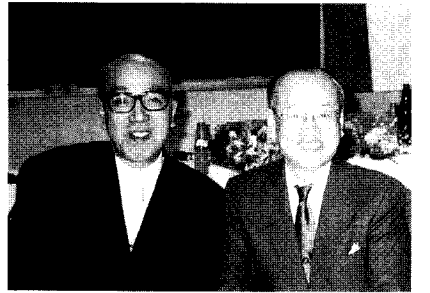
大井鹿島町会長、西光寺(浄土真宗)檀家代表、鹿嶋神社総代、品川区青少年委員、品川区野外活動委員会副会長、品川区文化財保護委員、品川区教育委員、教育委員長、全国人権擁護委員協議会東京都支部長、東京地方裁判所調停委員会代表、城南郵政協力会長、まだあります。岡田さんは社会活動、社会教育等に積極的に骨身惜しまず奉仕した人です。なかでも大井第一小学校同窓会、顧問会には力を尽くされました。「100才まで生きられるかな。」と2、3年前にお聞きしました。100才までいやそれ以上に生きてほしかった人です。

私との出会いは、昭和45年品川区が社会教育に力を入れた時期です。野外活動委員会が設けられ活動適地を探していた時代です。私もボーイスカウトにかかわっていたので委員に指名され、岡田さんほか委員達と、軽井沢、清里、日光、町田大地沢等に適地を探し求めました。その後、縁あって大井第一の教頭として発令された時、殊のほか喜んでくださいました。昭和57年大一のシンボルでもある校庭の桐の大木が台風によって倒れてしまったのです。台風一過次の日の早朝、岡田さん、黒田校長、私の3人で桐の木を惜しみ涙して日本酒を注いだこともついこの間のように思われます。大井第一のイベントや周年行事には、いつもご助言やご協力をいただきました。120周年記念碑「みみずく」

は岡田さんの発案と聞いています。大いへ



同う度に岡田さんみみずくに会ってきます。故多賀区長の信頼も厚く、区政についても助言されていたようです。お蔭で、品川区歴史館、大森貝塚公園一帯獲得に骨を折られたと聞いています。



大野元校長 岡田さん

私的なことになりましたが「東京を歩く会」(昭和55年、平成20年)という歴史散歩の会がありました。岡田さんは歴史についても見識があり、最初からこの会に入会、主任講師片岡龍一先生に学び先生亡きあと会の存続にまた牽引力として活躍されました。奇しくも私は、昭和59年入会し、岡田さんと一緒に会の推進をはかりました。平成18年岡田さん米寿、大野喜寿、2人合わせて165、題して「165歩のマーチ」として会員の方々が池袋東武ホテルで宴を催してくれました。岡田さん発案脚本で寸劇を披露し、会を沸かせたこともきのうのこのように、私にとつて忘れることができない1ページです。

何としても、もう少し大いを見守ってほしかったと思うのは私ばかりではありません。

葬儀の折、弟さんが「兄(二郎氏)は自分の思った事をまっとうした意志

の強い兄でした」と述懐されました。本当に有難うございました。大いのみみずくが岡田さんの代弁者としていつでも見守ってくれることでしょう。

音無しの学校へ再び就職

旧教職員

昭和32〜44年 北川 菅雄

単元「光と音」の指導内容に入った。光は実験で「直進・屈折・反射等」は把握できる。しかし、困ったのは、「音」をどのようにして効果的に捉えさせるかである。と申し上げれば、私は一昨年「バイリンガル・バイカルチュラル教育学校」(我が国で唯一の私立聾学校・明晴学園) 中等部を新設するから理科担当を願いたい、との依頼があった。中等部新設にはかなりの苦労があったようだ。言うまでもなく、意志疎通は全部「手話」なのだ。先ず驚いたのは、学芸会、運動会では全く音がしないことだ。走る時のスタートは光ピストルと旗で、拍手はしない。両手を上げて振ることが拍手の意味。ラジオ体操だけは和太鼓でリズムをとる。なるほど振動が各自に伝わるらしい。時限の区切は、各教室に設置されている緑色は小学部用、青色は中学部用の点滅装置が合図。教職員の連絡事項もすべて「手話」で徹底している。このような世界に私の様な78才の手話もできない老人が、急に中等部の理科指導を依頼されたからたまらない。仕方がないので連絡事項は筆談。教職員のうち校長、教

頭と一部の先生方を除いてすべて聞こえない。しかしNHKの手話ニュースや天気予報に出演している職員ばかりで学歴も東大や筑波大学院出身者ばかりなのだ。このような先生方に丁寧な指導してもらえれば子供達は幸せである。特に中2の女子で全日本中学剣道大会で優勝した子もいる程だ。音は聞こえなくても特殊な能力は持っているのにもびつくり。さて「音」の学習は、仕方がないので、和太鼓の向う側に火のついたローソクを一列に並べて叩かせると手前から消える実験や、音叉を叩いて水面を波立たせて広がる実験。私の好きな音楽の基礎。音叉は440ヘルツで「ラ」の音階。ロールピアノやオシログラフなどで何とか興味関心を持たせる工夫を試してみた。



光

大井第一小学校
 …ある時代 最終章
 昭和22年卒 山上 伸也

蛭が飛んだ。二匹並んで飛んできた。錯覚とは知りながら、キーンキーンと微かに音がしていたように思える。あのように、幻想的で、美しい光景は忘れられない。

「川遊び」
 浅川は、絶好の遊び場だった。灼熱の太陽の下、パンツひとつになって泳いだり魚を追いかけたり思う存分遊んだ。体が冷えると岸に上って石をひっくり返して、トンボの幼虫やカニをとった。息を止め、顔を水につけて魚の後を追っていった。そのうち沈んで泳げるようになった。水の中を魚みたいに泳ぐ、なんて気持ちがいんだらう。向う岸に探検に行った子が帰ってきて私に、一ミリ程の粒の木の实をくれた。桑の実と言うんだそうで、少しすっぱかったが甘く美味しかった。両方のポケット一杯に詰め込んで帰って行ったその子のズボンの前のほうはどつぷり紫色に染まっていた。

「トマト」
 秋が近いせいか、澄み切った青空に真っ白い雲が二つ三つ浮いているある日の午後、下級生の小野君と散歩に出かけた時の事である。神社の横の畑の端っこに真っ赤に熟れて美味しそうな

トマトが幾つか落ちていた。「食べちゃおうか」と小野君が言った。むしろぶりついたトマトの美味しかった事、口の中に甘くほのずっぱい香りがいっぱいに広がって…三口程食べたとき「ゴラッ」という声が聞こえた。二人は天国の食べ物をおっ放り出して全速力で逃げた。私は思った。「何故食いかけを持って逃げなかつたんだらう」と。「下に落ちていたものだから盗んだのではない。拾ったんだ」と。年中空腹の私達は、収穫の終わった畑で屑芋（直径1〜2センチ）や、南瓜の種を拾い、干しておやつにしていた。美味しくはなかったけれど、山の栗も地面に落ちていたのを拾うんだし、それは泥棒ではない。寂しいけれど厳然たるモラルだった。

「帰京」
 大井町に帰ってこられたのは、終戦から2ヶ月あまり過ぎた10月末だったと思う。5年生の秋であった。帰ってくる途中の沿線も、大井町も見渡す限り焼け野原であった。駅から三ツ又に上って行く坂の商店街は跡形も無く、所々掘っ立て小屋が建てられていた。まったく悲惨なものだった。我らの大井第一小学校も瓦礫の山になっていた。

「授業」
 学校の授業が始まった。焼け残った浜川小学校を借りてである。疎開まで

は男女共学であったのに、今度は別々の2クラスだけ、戦前の1学年の生徒数250人が100人に減っていた。私の男組の担任は、豊田で一緒だった神田先生。勉強は楽しかった。勉強に飢えていた所為だろう。

「友達」
 吉見君は、授業中しじゅうキョロキョロしていたので、神田先生が言った。「お前は、吉見じゃなくヨソミだ」と。橋本君は、火事が好きな男だった。消防車のサイレンとともに、私も時々飛んで行ったが、現場には何時も橋本君が居て、状況を説明してくれた。時には眼を輝かせサツソウとして消防車のステップに乗っている姿を見たこともある。

直井君は、中学も同じで、明治大学の応援部に行った。大井町駅周辺の飲み屋でよく一緒になった。後年、同級生の出演している寄席見学を兼ねたクラス会があった時、友の真打の話の中に、明らかに直井とわかる男が出てきて私達は喜んだが、平成10年、彼は死んだ。もうクラス会には出てこない。満身に食べるものも無かった貧しい大変な時代ではあったが、思い出っばいな、懐かしい私の小学校時代である。

波木井昌嘉先生を偲んで
 昭和30年卒 六戸 昭三郎
 私たちの恩師、波木井昌嘉先生が平成23年11月6日に、86歳の生涯を終え

られました。

先生は昭和28年に5年竹組の担任に着任され、翌年もそのまま6年竹組



の担任も続けられましたので、私たちはクラスメートは昭和30年卒業までの2年間、先生から直接ご指導を頂きました。通夜・告別式にはクラスメートの有志でお別れしてまいりました。先生は平成22年11月4日に奥様を急な病いで亡くされ、ほぼ1年後に後を追われた形になりました。入院して治療を受けておられました。ご自宅に戻られたあと、ご家族の皆様に見守られて、安らかに永眠されたこととす。

波木井先生は山梨県身延町の名門波木井家の第24代目の当主でおられました。先祖の波木井六郎実長公は身延の領主で波木井城主でもあり、文永11年(西暦1274年)、日蓮聖人が身延入山の際、直々に迎えたという史実が残っています。波木井先生とは小学校卒業後も、折に触れての交流・お付き合いが続いていましたが、先生の傘寿のお祝いのクラス会を、平成17年に初めて先生の故郷で行いました。近くの下部温泉に1泊して、先生を囲んでゆつくり語らったことが良い思い出となりました。

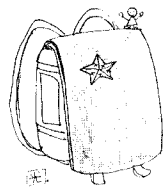
波木井先生が私たちの担任に着任された時は27歳でした。非常に真面目で几帳面でしたが、少しはにかみ屋でもおられました。何事にもウラオモチを作らない真つすぐな先生という印象でした。その後も50年を超えるお付き合いがありました。いっとお会いしても、

担任された当時の、若々しくお元気な先生のイメージがずっと続いています。ちよっとお洒落な素敵な先生でもあり、優しく円満なお人柄にも魅せられてきました。心からの感謝の気持ちを含め、謹んでご冥福をお祈りしたいと思います。

小学生のころ

昭和34年卒 大谷 弘道

大井第一小学校を卒業してはや50年以上過ぎ、私もシニアの世代に入りました。私の実家が小学校の前にある



「あけぼの幼稚園」でしたので、聞かえてくる始業チャイムを合図に駆け足で行けば時間に間に合いました。私は兄弟が多かったせいか、しゃべる必要がなく、話す能力が欠けた状態で小学校に上がり6年間を過ごしました。私がしゃべらないので当時お習いした先生方は本当に大変だったと思います。

「どうしたら人と話すことができるのか」このことは私の人生で大きな課題となります。幼稚園で「一緒に過し、そのまま小学校に上がった連中は皆おしゃべりでした。「どうしてそうべらべらしゃべることができるのか」これは私にとって本当に不思議でした。これが言葉に興味を持った理由になります。会話の成り立ち、人前で話すときの話の組み立て方など、普通の人ならばどうでもよい、自然に身につけてい

るであろうことに強い関心を持ち、私の研究課題となりました。おかげ様で、今はなんとか人前で話すことができるようになりました。ラジオやテレビでの仕事もそれほど苦にならずに引き受けてきました。

さて、人を教育するのは本当に難しい仕事です。40年近くこの仕事にかかわってきましたが、立ち止まり考えることが少なくありません。思うに教育の土台はやはり家庭にあります。親がどのように子供に向き合ったか、特に幼児期。これがほぼ子供のその後を決定してしまおうと思います。勉強ができるか、できないか、これも大切ですが、心の成長はさらに重要です。親からしっかりと受け止められていた子供は、歳とともに面白いほどのびます。それはないかと思えます。安定した心で、クリエイティブな作業に集中できる生徒は幸せです。こうした生徒たちを高校時代、スポーツや音楽、絵画など関心のあるクラブ活動に打ち込ませ、大学、大学院で一気に走らせる。これは本当に醍醐味のある仕事です。

慶應義塾高等学校長

慶應義塾大学理工学部教授

ヒマラヤスギの思い出

昭和34年卒 長谷川 慶華

小生の小学校時代と言っても、もう忘却のはるか彼方であり、記憶は薄れている。それでもわずかな思い出を辿

り、当時の第一小学校と世相をつれづれなるままに文章にしてみよう。入学した数年は教室が足りず朝組と昼組の2部授業だったこと、給食はなくお弁当を持って来れない子どもがいて、水を飲んで校庭で遊んでいたこと、その後校舎も整備され、木造であったが2階建てで、体育館も出来たことや給食が始まったことが思い出される。この頃、日本の国は戦後、朝鮮戦争を経て急速に高度成長が始まり、各家庭に電気製品が徐々に普及し、電気洗濯機、テレビ(勿論白黒)、電気冷蔵庫という風に生活が便利になってきた。それまで多くの日本人はアメリカの家庭生活をテーマにした映画で、それらの電気製品を使った生活に高嶺の花とあこがれを持っていたのである。そういえばテレビが急速に広まった頃、力道山というプロレスラーがいて、カラテチヨップが特技で、悪者に扮した敵を次から次と倒す姿に快感を覚えたものである。

小生らの世代が小学校に入学した頃と4、5年経た頃とは日本人の生活スタイルには大きな違いがあった。その後小生は最寄りの区立中学へ進み、さらに医師の道を歩み、社会に出て長い間勤務医を続けている間、大井町を離れることも度々であった。前橋、日吉、板橋、世田谷区などにも住んだことがある。しかし生まれ、育ち、幼年や少年時代を過ごした大井の地は常に忘れられることなく、十数年前に西大井の現在所に移り住んだ。第一小学校には小生の子供のうち1人が卒業、1人は小

3までいた。小生自身は小6の時は月組であったが、ほとんどクラス会が開かれず、十数年前大々的に行われた小学校の同窓会の一環で何人かに会っただけであるが、人生の後半に入り、多くの同級生たちは今みんなどうしているのだろうか、当時あったあの大きなヒマラヤスギの木の思い出を彼らも時々思い起こすのであろうか？

糸川順子先生

愛子様御用掛就任

既に、新聞等でご存知の方も多いと思われませんが、同窓会として改めてご報告致します。

平成23年5月16日付けで敬宮愛子様
の学習指導担当として採用されました。
糸川先生は平成10年度に大井第一小
学校に転入されて2年生を受け持たれ
ました。平成18年度に浜川小学校へ転
出されるまで主に高学年の担任をさ
れ、児童はもとより、保護者にも大変
信頼されていました。

(会報委員会)

同期会の報告

昭和14年卒同期会

昭和14年卒 津田 照通

私達は、毎年母校の開校記念日(5

月15日)に開催していますが、昨年は東日本大震災の影響で10月8日に開催しました。出席者16名。物故者7名。だんだん淋しくなりますが、母校の開校140周年記念の年が、私達の「米寿」の年に当たりますので、それ迄は続けることにしています。

次回は、5月15日(火)に開催します。場所、時間は例年通りで、詳細は後日郵送しますので、ご予約下さい。

昭和26年卒同期会

昭和26年卒 平出 武

真夏のように暑くなった平成23年5月14日(土)、昨年に引き続き、同期会を開きました。

今回は趣向を変えて大井第一小学校を見学し、60年前との違いを見たり聞いたりして、年月の移り変わりに慨嘆いたしました。

無理なお願いにもかかわらず、お忙しい辻松副校長先生が案内をして下さり、大島校長先生からご挨拶も頂きました。同窓生を大切に



の対応に感謝いたしました。

その後、近くのレストランで昼食をとり、懐かしい話に花を咲かせました。21名の参加ではありましたが、近況報告などを書いてくれた人の数も入ると、40名近い同期生の人々の話題が飛びかいました。楽しい一時でした。120周年の時、同窓会が寄贈した「みみずく」の像の前で写真を撮りました。

ホームカミングデーの日

の竹組クラス会

昭和35年卒 平林 幹夫

今年、ホームカミングデーの会場をクラス会の集合場所といたしました。ほぼ全員、クラス会参加メンバーが来場し、ホームカミングデーの幹事としても、ひと安心しました。クラス会の参加者20名で、とんかつ「ひろせ」に移動。近況報告など楽しく歓談し、ほぼ全員が二次会の会場、「アラジン」へ。カラオケを楽しみ、例年以上の盛り上がりでした。毎年秋に予定していますが、その都度、珍しい方の参加も



あり、いつも楽しみにしています。恩師である松崎先生のお元氣な様子を拝見できたのも、何より嬉しく感じられた一日でした。

月組クラス会

昭和39年卒 榎原 恵

2011年10月22日(土) 銀座5丁目個室宴会場「銀波」にて昭和39年6年月組卒業生14名(女6、男8)と担任だった植竹先生が集いクラス会を開きました。卒業して48年を経て尚クラス会が継続しているのは稀な事だと思えますが、最近では隔年の開催になっています。中には遠路名古屋から毎回参加する人もおり、また卒業以来音信不通だったが最近連絡先が判明し48年ぶりに皆と再会した人もいます。先生は80歳を越えたにもかかわらずカクシヤクとしていらして、書道の世界でいまだに現役で活躍されています。クラス会では一通り全員の近況報告が終ってから、は歓談に花が咲き、一次会はあつという間に終了。二次会には先生を除く全員が参加、さらに大半は三次会



まで参加と大いに盛り上がったクラス会でした。今年からは毎年開催しようという方向です。しがらみがなく童心に帰れるクラス会は何度参加してもいつも新鮮で楽しいものです。



ホームページ作成

昭和35年卒 平林 幹夫

今回、初めて会報に記事を掲載させていただき、昭和35年の卒業生です。松崎先生からご依頼がありまして、一昨年から同窓会の理事として参加させて頂くことになりました。退職後に始めた『品川たんけん隊』というボランティア活動に津田同窓会前会長をゲストとしてお招きしたことが、ご縁で同窓会のホームページ作成のご依頼をいただき、ホームページ立ち上げのお手伝いをさせていただくことになりました。

最初に、お預かりした資料を拝見することにいたしました。歴史を感じさせる多くの資料の出版物や記事等を読み始めたのですが、私自身が学校の歴史から学ぶこととなりました。同時に会報などに込められた同窓生の歴史や思いも強く伝わってきました。当時の写真は、その時代の情景を映し出していました。これをどのように伝えたいのか、ホームページとして何が求められるのか、その思いを伝え表すと

はどうしたら良いのか：そこから始めなければなりませんでした。

まず、トップページのデザインです。伝統ある大井第一小学校にふさわしい印象のトップページを考えました。歴史を感じさせる木目を基本として、落ち着いたイメージを大切にしました。また、少し動きを持たせたかったので、古い校舎の写真や授業風景の写真を動画で、取り入れてみました。

続いて、ホームページに掲載する記事の抜き出し（下書き）と写真素材の選択、大まかな項目を設定しラフレイアウトと構成を考えました。（家内が、自分のホームページを持っているので制作に協力してもらいました。）

そして、ウェブページに入力する記事の文字原稿の作成、写真原稿のスキヤニング及び修正など、文字データ、画像データの入力など、10日間ほどを要しました。

また、変更手続きのフォームの設計（安田理事と相談しながらフォームを設計）手直しをして、全てのデータを入力し、テストサイトにアップロード。続いて、最終的な校正、確認をし、ホームページが完成致しました。

変更手続きのフォームが、一番の難所でしたが、使いやすい形に成っているのではないのでしょうか。

大井第一小学校、品川区、品川たんけん隊、のリンクも貼らせて頂きました。あわせてご覧いただき、大井町の情報に



触れて頂ければと思います。

同窓会のホームページ 利用について

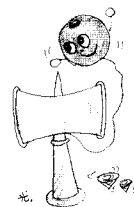
お知らせのコーナーを同窓生の皆さままで、ご利用下さい。

- ☆ クラス会、同期会等、又同窓会役員が主催する同好会、サークル、イベント等の催しなどのご利用に、お気軽にお申し込み下さい。
- ☆ 営利の目的の行事は、お断りいたします。
- ☆ 掲載は無料です。
- ☆ 申し込み順に掲載します。文字のみにてもOKです。（100字以内）
- ☆ 写真添付の際は3枚までと致します。
- ☆ 申し込み時に、卒業年度とクラスを明記願います。
- ☆ 申し込みまれた掲載内容は、原則年間4回の理事会にて承認されてから掲載いたします。
- ☆ 掲載期間は承認期日より3ヶ月を基本と致します。継続掲示は後の理事会にて再審議いたします。
- ☆ 同窓会員の皆様に母校の同窓生同士の交流と親睦を深める為、ホームページを皆様の広報の場としてご利用いただければ幸いです。
- ☆ 申し込み先
ホームページのお問い合わせコーナー。お知らせのコーナーを同窓会員の皆様にご利用して頂くことについて、又ホームページの利用方法についてなど、ご意見・ご要望などございましたらお知らせ下さい。お待ちしております。

「大1まつり」に参加して

平成23年2月26日（土）、PTA行事の「大1まつり」が開かれました。前年の夏頃から、PTAから同窓会へ参加協力のアプローチがありました。

「大1まつり」とは、約10年程前の当時のPTA役員が、PTA活動の一年間の締めくくりとして、6年生も参加できるように配慮して、受験を終えた年度末に「大1こどもまつり」として始めたのが最初で、回数を重ねる度に規模も大きくなり、現在の「大1まつり」として、児童・保護者・教職員・すまいるスクールを巻き込む形に発展して行きました。因みに、今回の参加は約600名（運営者含む）でした。



今回は、校庭でのセレモニーにすまいるスクールのメンバーによる「エイサー」の演技やハンドベルの演奏も加わりにぎやかな開幕となりました。

PTAのゲームコーナーや中華まん等の軽食の模擬店にチケットカードを持った児童たちはきちんと列をなして自分の順番を待っていました。その姿は、さすが大1の子どもたちです。

同窓会では、パネル写真の展示と「昔遊び」コーナーを担当して、けん玉やお手玉、あやとり等を理事のメンバーと児童と一緒に遊び楽しみました。

特に、ペー
ゴマは男性
陣が昔取っ
た杵柄を發
揮しました
が、とても
上手な男の
子が来てし
まい驚かさ
れました。



「大いま
つり」終了
後、6年生
の希望者
(ほぼ全員)のお泊り会の前に、大井
第一小学校や大井町の時の流れが見ら
れる展示写真の説明を土肥前副会長が
しました。多目的室に集まった6年生
は土肥前副会長の説明を熱心に聞いて
いました。

同窓会では、機会があれば前記のよ
うな形以外でも学校やPTAに協力を
しています。また、学校やPTAから
も同窓会への協力をしていただいてお
ります。今後も、お互いに連絡を取り
合いながら、大井第一小学校の発展の
ために協力し合って行きます。

注 すまいるスクール

編集委員

区内の児童センターで1年生から3年
生の希望者(主に、共働き家庭の子ども)
を放課後学童保育を行なっていたのが廃
止されて、小学校の空き教室を改築利用
して、1年生から6年生の希望者が放課
後利用できる施設。指導員はその小学
校の先生ではなく、教職免許証を持つてい

る先生の他にボランティアで運営してい
る。

振替用紙の通信欄より

○「会報」有難く拝見致しました。入
学時に井上もと先生、卒業時は柏木
先生と思い出されお世話になりました。

(S10年竹卒 田島 成一郎)
○随想を会報に載せて頂き、恐縮しま
した。遠く同窓会のご発展を心から
祈っています。

(S11年雪卒 磯邊 澄子)
○会報ありがとうございました。我が
家から学校への往復に鹿嶋神社の前
を通ったこと、当時の風景が懐かし
く思い出されます。

(S13年梅卒 丹羽 敏子)
○原先生のこと、感激となつかしさで
拝読しました。

(S14年竹卒 木村 桂二)
○桜の季節に頂く会報は、いつでも私
を、少女の頃に引き戻してくれる。
私の人生の原点です。

(S15年梅卒 佐藤 二美子)
○私も兄も妹も原先生大好きでした。
原十郎元寛先生のお話、大変思い出
深くなつかしく読ませて頂きました。

(S16年雪卒 難波 英子)
○同期生二、三の方々とは、emailでの
付合いはつづいています。岡田一郎
氏のご逝去に心が痛みます。ご冥福

を祈ります。どぶ川をわたり、味噌
屋さんの土地(岡田さん宅)で随分
かけまわり、かくれんぼをしていま
した。

(S18年月卒 菅野 義信)
○私の母は97歳。今でも戦後の第一小
の父兄会の事をなつかしんでいま
す。

(S23年竹卒 宝田 哲郎)
○「ホームカミングデー」は、まだま
だ浸透していません。諦めるのは早
すぎます。「継続は力なり」

(S28年雪卒 増岡 高充)
○私は昭和30年松組卒業です。私達の
頃、区内小学校で合唱や演劇のコン
クールが盛んで、よく出ました。佐
治先生というきびしい音楽の先生の
下で合唱コンクールに出たのを覚え
ています。「さくらんぼのかくれん
ぼ」という歌をうたいました。

(S30年松卒 高野 路子)
○S32年卒の同期会は出席できず、本
当に残念でした。安田さんの記事を
読み、次回は出席できます様に健康
に気をつけて過ごしたいと思いまし
た。

(S32年月卒 新井 清子)
○品川区清掃事務所に勤務していま
すので、なにかお手伝いすることがあ
ればどうぞ。

(S42年竹卒 太田 龍司)
○創立135周年に改めて歴史を感じま
した。

(S61年月卒 小野沢 江美)

平成23年度の教職員の移動

I 退職

教諭 福島 芙美子
栄養士 宮森 保子

II 転出

主幹教諭 小川 浩一
(北区教育委員会へ)
主任教諭 岩永 幸子
(品川区立御殿山小学校へ)

主任教諭 永野 むつみ
(江東区立北砂小学校へ)

教諭 橋本 杏里
(江戸川区立瑞江小学校へ)

産休代替養護教諭 入谷 悦未

第8回総会報告

平成23年5月21日(土)午後2時

於 大井第一小学校 多目的室

出席者 20名

一、会長挨拶 津田 照通

二、来賓挨拶 大島 久幸校長

辻松 康晴副校長

三、議 事

①事業報告・収支決算報告及び監査報告

②事業計画及び収支予算の承認

③役員改選の承認

④会則の改定の承認

以上の議事について承認決定されました。

退任役員

会 長 津田 照通(昭和14年卒)

副会長 土肥 義尚(昭和23年卒)

監 事 飯田 るみ(昭和46年卒)

新役員

会長 大野 正恒 (昭和39年卒)
 副会長 森 秀雄 (昭和34年卒)
 監事 平林 幹夫 (昭和35年卒)
 井上 幸子 (昭和42年卒)
 大山 義広 (昭和42年卒)
 小林 昌信 (昭和46年卒)

新会則はホームページに掲載してあります。

2010年度 収支計算書

(平成22年4月1日～平成23年3月31日現在 単位：円)

項目	金額	項目	金額
(収入の部)		広報費(事)	2,538
会費収入	1,315,000	会議費(事)	3,177
人会金収入	39,000	旅費(事)	0
記念誌等販売収入	0	通信運搬費(事)	707,623
寄付金収入	5,300	事業費雑費	40,000
雑収入	2,038	事業費計	1,165,749
①当期収入計	1,361,338	〔管理費〕	
前期繰越収支額	4,348,008	会議費(管)	7,570
②収入計	5,709,346	旅費(管)	0
(支出の部)		通信運搬費(管)	820
「事業費」		事務用品代	8,087
総会開催費	0	振替手数料	83,170
秋季大会費	42,981	管理費雑費	10,000
会報出版費	357,939	管理費計	109,647
調査費	0	③当期支出計	1,275,396
名簿管理費	11,491	当期収支差額(①-③)	85,942
		次期繰越収支差額(②-③)	4,433,950

会費納入のお願い

同窓会事業を継続していくには、会報等の印刷代、通信費、事務費、母校に因る慶弔費等の諸費用がかかります。平成22年の会費納入者は約800名で約七二〇〇名に第13号会報を送ること

窓会活動を続けていくために、会費納入に皆様のご理解とご賛同を心よりお願い申し上げます。

同封の振込用紙をご利用頂き、5月末までにお振り込み下さい。(ATMでの振込にご協力下さい)

寄稿のお礼と投稿のお願い

皆様のご協力で、14号を発行することができました。又、寄稿して下さいました皆様ありがとうございました。今回紙面の都合上、訂正したり割愛した箇所がありましたことをお詫び申し上げます。

「文字」にして残しておきたい思い出等、随時投稿をお待ちしています。10月30日までに、郵便、FAX、Eメールで、事務局宛にお送り下さい。

先生方の逸話、裏話、近くにいた有名人など『ちよっといい話』お寄せ下さい。

- ・ K先生は校門を入ったところでテント生活をしていた(昭和40年代)
- ・ 池田秋子先生は1年生の私達を「だっこ」してくれて、とても嬉しかった。
- ・ K先生は白禪でプール指導をしていた
- ・ 俳優真〇広〇は大井第一小の卒業生です
- ・ などなど事務局ホームページに投稿をお願いします。

名簿の資料提供にご協力を!

(新住所・改姓名をお知らせください) 会報を通じ、より大きく同窓の輪が広がることを願い、正確で充実した資料づくりを目指していますが、毎年、相当な数の宛先不明の会報が戻ってきます。

名簿委員会では、会報をお送りするために、「個人情報保護法」に則り、同窓会員の皆様の自宅住所・電話番号の個人データを厳重に管理し、保持しています。

転勤、結婚、転居などにより変更となる場合には、事務局までお知らせください。

同窓会の運営にご協力を!!

同窓会では母校を支援しつつ、同窓生の親睦を図るべく活動しております。その運営に理事として参加して頂ける方のご推薦をお願い申し上げます。特に、企画やITを得意とされる意欲ある方(老若男女問わず)の参加を歓迎致します。

お詫びと訂正

会報13号2頁、金澤壽雄先生の文中「品川区立青年館」とすべきところ「日本青年館」としてしまいました。お詫びをすると共に、訂正いたします。

物故者

波木井 昌嘉先生(昭和27年〜32年) 謹んで、ご冥福をお祈りいたします。

同窓会事務局

大野 正恒
 〒一四〇一〇〇一四
 東京都品川区大井五―二―一四
 TEL/FAX 〇三―三七七三―五五二七
 E-mail:wpjny726@yahoo.co.jp
 森 秀雄
 〒一四〇一〇〇一四

東京都品川区大井一―五三―一九
 TEL 〇三―三七七三―〇五〇六
 E-mail:hide@mori-shoukai.co.jp
 井上 幸子(旧姓 山崎)
 〒一四〇一〇〇一四

東京都品川区大井七―八―一三
 TEL/FAX 〇三―三七七五―六五九六

 〒一四〇一〇〇一四

東京都品川区大井六―一―二三
 品川区立大井第一小学校
 TEL 〇三―三七七一―五二四〇
<http://www1.cts.ne.jp/oichi/>

編集委員

昭和14年卒 津田 照通
 昭和30年卒 木村 親光(イラスト)
 昭和34年卒 森 秀雄
 昭和35年卒 平林 幹夫
 昭和39年卒 榊原 恵
 昭和42年卒 井上 幸子
 昭和51年卒 西村 晃太郎